

平成20年度 佐賀県立佐賀商業高等学校学校評価計画

1 学校教育目標（長期教育目標）
経済社会の各分野で活躍しうるように、学校生活のあらゆる機会を通じて商業人として必要な知識や技術を習得させ、生徒の心身を錬磨する。

2 学校経営ビジョン（中・短期教育目標）
(1) 「授業と部活動を真剣に」をモットーに文武両道の教育を推進する。 (2) 基本的な生活習慣を身に付けさせ、心身ともに健全な生徒を育成する。 (3) 規律やルールを守り、努力する、心豊かな生徒を育成する。 (4) キャリア教育（生徒一人ひとりの勤労観や職業観を育てる）を推進し、地域社会や日本経済の発展に寄与しうる商業人を育成する。 (5) 教育公務員としての自覚を持ち、資質の向上に努める。 (6) 地域・保護者との連携を強化し、信頼・期待される学校を目指す。

3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
夢は大きく、あたりまえのことをあたりまえに！ (1) 明るい挨拶、気持ちのよい挨拶 (2) 授業と部活動を真剣に (3) 具体的な目標を持つ (4) 佐商生らしい身だしなみ (5) 自分のゴミに責任を持つ (6) 毎月1冊以上の読書（朝の10分間読書）	【成果】 進学・就職とも100%達成（国公立大14人） 【課題】 (1) 特色ある学科を目指しての教育課程の編成 (2) 基礎学力の定着を図るための学習指導体制の確立 (3) 危機管理体制の強化を図る

5 総括表				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
学 校 運 営	学校経営方針	・本年度重点目標の周知	・教職員、生徒、保護者に周知する。 ・周知度を90%以上にする。	・職員会議や全校集会等で説明する。 ・学校便り、後援会総会、学級懇談会等の折りに周知し、具体的取組を説明する。
	教職員の資質向上	・研究授業（公開授業）の推進 ・社会の変化に対応した教育の実践	・教師一人当たり、年最低1回以上研究（公開）授業を実施する。 ・年に1回は研修を受講する。	・指導方法の工夫・改善のために、各教科での研修や研究の充実を図る。 ・何時でも公開授業ができる体制づくり ・県教委や教育センターの研修等を活用し、教育環境の変化に的確に対応できる教員の育成を図る。
	開かれた学校づくり	・1日体験入学の実施 ・家庭や地域への情報発信（鯨の門だより）	・中学生の参加者数を、昨年並み(900人程度)の参加を目指す。 ・鯨の門だよりの保護者への周知度を85%以上にする。	・中学校への学校説明（DVD・生徒代表発表）内容の充実を図る（学校の特長・3学科の特長を充実させる） ・制服・各部紹介パネル等 ・学校のホームページや「鯨の門だより」を通じて、学校の情報を公表し、ホームページについては逐次内容の更新を図る。（閲覧の状況・件数の確認） ・アンケートにより保護者への配布確認・内容の感想
	開かれた学校づくり	・学校施設や教育資源の地域への開放	・各機関からの要望に対する開放に向けて条件整備を行う。	・学校施設を各種試験会場や地域行事等に開放する。 ・地域行事に積極的に協力参加する。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	開かれた学校づくり	・学校評議員制度等を活用した学校運営の推進	・学校評議員会を学期に1回実施する。	・学校評議員会を学期に1回実施し、各委員から出された意見を吟味し、学校運営に反映させる。 ・学校評議員に授業を参観していただき、意見を聴取し、授業や行事の改善を図る。
		・保護者や地域との連携	・保護者や地域の人を対象に、3回以上、公開授業を実施する。	・後援会総会時に公開授業を実施する。 ・学校開放週間に全ての授業・部活動等を公開する。
教育活動	学力向上	・指導方法の改善	・各教科で分野ごとの到達度を設定し、年度末での到達度テストで、70%以上の通過率となるようにする。	・進捗計画や到達度について各教科間で再点検を行い、教材の作成を行う。また、到達度テストの検討を行う。
		・資格取得への取組	・卒業までに全員に1種目以上1級の資格を取得させる。 ・卒業までに3種目1級以上の取得者数を50人以上にする。 ・卒業までに情報処理科の生徒全員に情報処理1級の資格を取得させる。 ・国際経済科の3年次までに、全員に実用英語検定準2級を取得させる。	・カリキュラムを見直す。 ・理解度を見るための確認小テストを実施し到達していない生徒には、補習を実施する。 ・高度資格を取得することで、進学に生かした指導体制を確立する。 ・各種検定前の強化指導を図る。(部活動顧問との連携)
	心の教育	・外部講師による講演実施 ・カウンセリングの充実(不登校生徒の減少)	・登校(欠席)状態の把握し、早期対応・早期解決を図る。	・いじめの問題を生徒・教職員全体のものとしてとらえ、「命の大切」を理解させるための講演を実施する。 ・家庭との連携 ・スクールアドバイザーとの連携・協力(教職員のカウンセリングマインドの高揚を図る)
		・ボランティア活動の実施	・各学年年1回以上のボランティア活動を実施する。	・地域社会において環境教育を推進する。
・体験活動の実施 ・読書活動の推進		・インターシップの活用 ・自己を見直す時間をつくる。	・異年代との係わりを通して多彩な体験をさせる。 ・推薦書の紹介(図書課・教職員からの紹介)	
健康・体づくり	・食育の推進	・朝食喫食率を90%以上とする。(生活習慣病の減少)	・実態把握のためアンケートを実施し、生活のリズムの安定を図る。 ・学校栄養士による指導 ・食育関連の情報発信(プリント配布)	

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
教 育 活 動	進路指導	・進路希望の達成	・就職内定率、進学決定率とも 100%を目指す。 ・国公立大学15人以上の合格を目指す。	・卒業生の就職先を訪問したり、新規の企業開拓にも力を入れ、より優良企業への就職を実現する。 ・進学希望者(公務員希望者を含む)に対する補講の実施。 ・各学年ごとに進路啓発のためのガイダンスを実施し、それぞれの時期における進路への目的意識を持たせる。 ・高度資格取得への挑戦や小論文指導の強化で合格者増を目指す。 ・朝補講における実施教科の内容充実を図る。
	生徒指導	・基本的な生活習慣の確立	・皆勤の生徒を5%増やす。	・「明るい挨拶、気持ちの良い挨拶」運動を推進する。 ・正しい礼儀作法(言葉遣い指導)と佐商生らしい身だしなみ等、マナー指導の強化。
		・安全教育の徹底	・交通事故(特に自転車事故)の減少(10件以内)	・交通指導の徹底と安全教育に対する講話の実施。 ・集会ごとに交通安全・危機管理意識の啓蒙を図る。
		・耐性・忍耐力の育成(服装基準の厳守)	・校則を守らせる(服装再検査の減少) ・周知度を80%以上に上げる。	・生徒指導方針を年度当初に職員、生徒や保護者に明確に示し、定期的にその達成度を確認する。
		・事後指導より事前指導の徹底を図る	・事件や事故の発生率を昨年より下げる。(10%)	・事件や事故が起こってから指導するのではなく、事件や事故が起こらないように事前指導を徹底する。
	図書	・図書館の利用促進	・生徒月1冊の読書を目指す。 ・貸出冊数アップを目指す。(一人3.2を3.5までアップへ) ・図書館便り等による広報活動充実	・クラス委員による読書の推進と学校図書利用の呼びかけにより、読書量・貸出量のアップを図る。 ・新刊案内・お薦めの本など広報活動を充実させる。(小論文対策用・課題研究用図書コーナー設置) ・生徒の学習に必要な書籍を充実させる。
	特活指導	・部活動の振興(活性化を図る)	・部活動入部率90%以上を目指す。 ・高校総体で昨年並の優勝旗(5本)を獲得する。 ・保護者、同窓会へ活動状況報告	・部入部者調査並びに未入部者に対して追指導を行う。 ・体験入部期間を設定する。 ・部活動状況をホームページやプリントを配布することで、加入率向上と退部者の減少に繋げる。 ・部員及び指導研修会を実施する。
		・自主的な生徒会活動の拡大	・挨拶運動の強化	・基本的マナーと佐商生としてのプライド育成を図る。
		・部員の学習取組の意識高揚と部活動活性化への指導	・部長会議の充実	・部長としての意識高揚
		・部費の管理の適正化	・保護者への報告	・効果ある活動費の運用を図る。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
	保 健	・ 定期健康診断の事後指導の徹底	・ 健診後の治療率のアップを図る。 (各学年 70 % 以上)	・ 治療に対する意識の向上と未治療者へ治療を促し、治療率を上げていく。(保護者や部顧問の理解と協力を得ていく)
		・ ゴミの減量化 (廃棄総重量の 5 % 減)	・ ゴミの量を昨年度より、減らしていく (5 % 減)	・ 強調週間を設けて各クラスから出されるゴミの量軽減を図る。 ・ 各自持込んだものは責任を持って処理すること (持帰り運動の推進)
		・ 教育相談体制づくり	・ 不登校生徒等への支援体制を確立する。	・ 講演会や保健だよりを通じ、心の教育や安全教育の充実を図る ・ 保健室と学年会 (担任) および教科担当との連絡会を通じて、不登校生徒への理解と支援のあり方を検討し、協力体制を確立する。
	後援会	・ 保護者との連携	・ 後援会総会への参加率を 70 % 以上にする。 ・ 地区別保護者会の内容検討 (参加率 65 % 以上)	・ 授業を公開 (主に担任による授業) することで、多くの参加を促す。 ・ 地区保護者会の実施時期と内容等の検討。
	情報管理	・ 個人情報保護と情報漏洩の防止 ・ 学校ホームページの内容充実と定期的更新	・ 定期的調査と職員への意識強化 ・ 最新情報のアップに心掛ける。 (各方面の情報の収集)	・ 情報セキュリティ月ごとの調査実施 ・ 学校行事や部活動の結果をいち早くホームページで知らせ、学校の PR 活動に生かす。
学校行事	・ 学校の重点目標に則した学校行事の実施	・ 学校行事の 100 % 実施と時間短縮。	・ 各課との連携を強化し、内容の充実と精選により、授業の確保を図る。 ・ 学校行事を考査後に実施する。	
家庭学習	・ 家庭学習の時間の確保	・ 毎日最低 1 時間の確保	・ 各教科・科目で課題を出す。 (提出期限の厳守と未提出者指導)	
1 学 年 の 教 育 活 動	学習関係	・ 基礎学力の向上	・ 漢字テスト、英単語テストの不合格者数を学年 5 % 以内にとどめる。 ・ 学習に取り組む姿勢を身に付けさせる。 ・ 課題の提出率を 100 % にする。 ・ 真剣な授業態度を育成する。	・ 実施計画に基づき、正副担任の連携を図って、事前指導・事後指導を徹底する。 ・ ホームルーム時の有効活用により、定期考査前の指導強化を図る。 ・ 課題提出状況のチェックを確実にを行い、未提出者に対する指導を徹底する。 ・ 始業チャイムの前に着席させ、授業の準備をさせるとともに、居眠りや頬杖をつくことのないように、常に注意を払う。
	生活関係	・ 基本的生活習慣の確立	・ 保護者との信頼関係を構築する。 ・ 全クラスで出席率 95 % 以上を目指し、長期欠席者を未然に防ぐ。	・ 担任・副担任・学年主任と保護者との連絡を密にする。 ・ 長期欠席者対策として、保健室や教育相談と連携し、スクールアドバイザー等に相談しながら、早期解決を図る。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
			<ul style="list-style-type: none"> ・違反行為者「0」を目指す。 ・教育環境の整備を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームルームや学年集会等を利用して、違反行為を未然に防ぐ指導を徹底する。 ・教室のロッカーの整理整頓や担当掃除区域での清掃活動の指導を徹底する。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望の達成 	<ul style="list-style-type: none"> ・職業意識・進路意識を明確に持たせることにより、進路希望達成のための具体的個人目標を100%確立させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームルームや学年集会等を利用して、進路が「ダンス」を行い、職業観を養うとともに、自己の適性を見出させる。 ・進路（就職または進学）に対する考えを明確にさせ、進路希望達成のために必要な検定資格取得の指導を徹底する。
		<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ・文武両道を前提としながら、90%以上の部活動加入率を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任団を中心として、機会あるごとに生徒への声をかけを行い、部活動加入率アップを図る。 ・部活動が教育の一環であることを確認し、部員が挨拶や礼儀を身につけ、学校の中でリーダーシップを発揮できるように育てていく。
2 学 年 の 教 育 活 動	学習関係	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字テスト、英単語テストの不合格者を学年の5%以内にとどめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施計画に基づき、事前指導、事後指導を徹底する。
	生活関係	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生らしい身だしなみ ・出席率のアップ（出席率95%以上を全クラス実現する） 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に服装・頭髮に関して指導する。 ・挨拶を励行させる。 ・5分前行動を徹底させる。 ・集会時の静粛さを徹底させる。 ・提出物の期限を明確にし守らせる。 ・遅刻者への指導を徹底する。 ・家庭との連絡、教育相談との連携を密にする。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望の達成 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路への意識を明確化させ、進学補講・公務員補講への参加者を学年全体の50%以上にする。 ・インターシップを成功させる。 ・修学旅行の内容を精選する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターシップ・修学旅行等の各種特別活動の事前指導・事後指導を十分行い、世界観や視野を広げ、社会性を身に付けさせる。 ・インターシップ実施に向けて、企業や職種研究を行なう。 ・修学旅行を進路指導の一環として位置づける。
		<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の活性化 ・生徒会活動に積極的に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入部率を95%以上にする。 ・各クラス2人以上、生徒会役員として活動させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部顧問との連携をとり、部員調査や未入部者の確認をする。 ・学校活性化に繋がるように、生徒会活動に参加させる。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
3 学 年 の 教 育 活 動	学習関係	・基礎学力の向上と高度資格取得	・評定平均値の全員3.0以上を目指す。 ・各検定試験1級取得数のアップを目指す。	・ホームルーム・個人面談・学年集会等を利用して、希望進路の実現へ向けて評定平均値のアップと高度資格取得の重要性を再確認させ、学習意欲を喚起する。
	生活関係	・基本的生活習慣の確立	・出席率99%以上および皆勤・精勤生徒80%以上を目指す。	・ホームルーム・個人面談・学年集会を利用して、自立した社会人のなるために、自己管理(生活・健康)の重要性を認識させ、欠席者数の減少を図る。
	その他	・希望進路の実現	・年度内進路決定率100%を目指す。	・進路指導課との連携を密にし、全体指導・個別指導を通して、段階的・計画的に進路研究および受験対策に取り組ませる。
		・特別活動の充実	・各部活動各種大会上位入賞を目指す。 ・学校祭のアンケートで満足度90%以上を目指す。	・ホームルーム・学年集会等を利用して、部活動や学校行事(学校祭等)に積極的に参加し、高校生活最後の思い出を作るとともに、集団行動の中で人間力を磨くよう指導する。
特 定 課 題	ITを活用した授業	・パソコン活用授業の充実	・教職員全員が情報機器を活用した授業を行う。	・情報機器を活用した授業を全教諭が学期に1回実施する。
	学校の個性化	・特色ある教育課程の編成	・3学科の特長を生かしながら新学習指導要領に向けた特色ある教育課程の編成に取り組む	・生徒の興味・関心や進路希望等に対応したコースを設け、教育目標や年間計画を明確にする。 ・アンケート等を通して実態を把握する。 ・新学習指導要領の内容を検討する。
		・地域開放講座への協力	・昨年度より多くの講座の実施を目指す。	・「高校生Teacher講座」に参加することで、将来の佐商生を目指す生徒への支援をする。
		・外部講師の活用	・年間指導計画に沿った最低20時間以上の実施	・生徒の多様な興味・関心に応えるとともに、より高度な資格取得や発展的な学習に結びつける。
		・大学等との連携への取組	・大学等との連携の基盤づくり(連携先検討)	・高度資格(日商簿記1級等)を取得させ、高大連携の基盤づくりを目指し、難関大学に挑戦させる。
		・インターンシップの推進	・実施学年生徒の100%の参加実現	・職場での体験を通して、勤労観や職業観を培うとともに、将来の進路を考えるきっかけとする。
		・学校祭(体育祭と文化祭の同時開催)	・新たな歴史を築くための体育祭と文化祭を一体化した企画運営	・文化祭内容と体育祭と同時開催に向けた企画のあり方を検討し、地域参加型文化祭を実施していく。
・起業家教育の推進	・起業家教育の定着 ・知的財産教育の充実	・企業を興すまでの一連の流れ学習や新商品開発を目指すことで、将来の起業家の育成を図る。 ・特許庁のテキスト利用から、興味関心を喚起する。		